

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	第8回 枚方市総合計画審議会
開催日時	平成27年4月24日（金） 18時00分から20時06分まで
開催場所	市役所別館4階 特別会議室
出席者	会長：新川委員 副会長：吉川委員 委員：伊東委員、榮野委員、加藤委員、角野委員、北川委員、後閑委員、小原委員、嶋田委員、谷本委員、徳久委員、富岡委員、橋本委員、原田委員、三輪信哉委員
欠席者	岡田委員、高井委員、宮原委員、三輪敦子委員
案件名	1. 部門別の取り組みについて 2. 重点化する取り組みについて
提出された資料等の名	1. 部門別の課題と対応一覧（案） 2. 重点化する取り組み（案） 3. 総合計画策定スケジュール 参考資料1 基本計画の構成イメージ 参考資料2 「部門別の取り組み」に係る委員意見一覧 参考資料3 「重点化する取り組み」に係る委員意見一覧
決定事項	1. 第3回及び第4回部会等の意見を踏まえて整理・作成した資料1及び資料2について事務局から説明を受け、確認・議論した。 2. 本日の意見を踏まえて資料1及び資料2について事務局で整理した内容を、次回の審議会で確認することとした。 3. 今後の計画策定のスケジュールを確認した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	なし
所管部署（事務局）	政策企画部 都市戦略室 政策企画課

審 議 内 容

新川会長

それでは定刻でございますので、ただいまから第 8 回総合計画審議会を開催させていただきますと思います。

本日、お手元の次第でございますように、案件が 2 つございます。これまで部会等を含めてご審議いただきました「部門別の取り組み」につきまして、これまでのご意見を踏まえて事務局の方で取りまとめくださいました。

それからもう一つ、どうしても総花的、縦割りの総合計画になりがちですので、これに横串を刺すという主旨で、また、重点的な取り組みを特出ししていこうということで、その候補になる重点的な取り組みについて、これも部会等でご意見をいただいていたのですが、これまで比較的多くの方からいただいたご意見をベースに、事務局の方で取りまとめいただいております。これらにつきまして、審議会全体でご意見をいただければと思っております。

さっそく案件に入りたいのですが、若干、委員の交代があったようでございます。本日、初めてご出席いただきます委員もいらっしゃると思っておりますので、事務局からご紹介をいただければと。また、あわせて新年度、事務局の方もいろいろと人事異動等があったと聞いてございますので、事務局の方からあわせてご紹介をいただければと思っております。よろしく願いいたします。

事務局

(委員・事務局紹介)

新川会長

どうもありがとうございます。新年度早々、もうすでにかかなり進んできた中で取り組んでいただくこととなり大変申し訳ございませんが、新任の原田委員、それから事務局の方、よろしく願いいたします。

それでは、枚方市の総合計画、今年度はこれを何とか作り上げてしまわないといけないということですので、しっかりと議論し、良い答申を出していきたいと思っております。

これまで、過去 2 年間にわたって議論してまいりました。かなり全体の姿が見えてきた、そういうところまでは来たかなと思っております。ただし、中身はまだまだ詰めないといけないところがあるかと思っております。

今日も今から 2 時間くらいを目処にしっかりとご意見をいただければと思っております。それでは、まだご到着でない委員もいらっしゃるようでございますけれども、さっそくですが、本日の委員の出席状況、それから資料のご確認を事務局の方からお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局

本日の現時点での出席委員は 14 名でございます。「枚方市附属機関条例」に基づきこの審議会が成立していることをご報告申し上げます。なお、2 名の委員が遅れて来られるとお伺いしておりますので、よろしく願いいたします。

新川会長

それでは、本日の案件に移らしていただきたいと思いますが、今日は 2 つございます。特に、これから最初に取り上げる「部門別の取り組み」の案件につきましては、部会を含めてたくさんのご意見をいただいております。皆さん方からのご意見を踏まえて、事務局の方でもいろいろと庁内的にも調整をしていただき、たくさんの修正、あるいは追加がされているということのようでございます。

お手元の資料 1 については、あらかじめお手元に届いていたかと思っておりますが、こういう非常に多量の資料でございますので、少し説明が長くなりそうだと聞いております。できるだけ要点・論点を的確に踏まえて、ご説明をいただければと思っております。多少、長くなりますことをあらかじめお許しをいただければと思っております。資料 1 について、ご説明をいただいた後、各委員からご質問、ご意見をいただくという形で、まずは進めていきたいと思っておりますがよろしゅうございますか。

それでは、恐縮でございますけれども、まずは資料 1、その他関係する参考資料としまして、事務局の方からご説明をいただきたいと思っております。

事務局	<p>(資料1「部門別の課題と対応一覧(案)」の説明) (参考資料1「基本計画の構成イメージ」の説明) (参考資料2「部門別の取り組み」に係る委員意見一覧)の説明)</p>
新川会長	<p>どうもありがとうございました。各委員からのそれぞれのご意見に基づいて、ただいまご説明をいただきましたような加筆修正、内容の精査をしていただきました。</p> <p>ご説明を聞かれて、またすでに資料をご覧いただいていることもあろうかと思えます。委員の皆様方からご意見、また、修正等に関わる、あるいは事業内容等に関わりますご質問などもあるかと思えますので、ここはご自由に、ご意見、ご質問をいただきたいと思えます。</p> <p>私の意見が全然反映されていないぞ、というようなところも含めて、ご意見をいただければと思えます。どうぞ、どなたからでもご自由にご発言いただければと思えます。</p>
富岡委員	<p>ちょっと教えていただきたいところがあります。もうちょっと早くお聞きしておけばよかったかなとも思っていますが、14ページのところで、小中一貫というお話が出てくるんですけども、保幼小についてはどうお考えになるのかなと思ひまして。今や、流利的に言うと、保幼小というのはすごく重要な課題があつて、文科省の方ではスタートカリキュラムを各自治体でそれぞれ作っているところかなと思ひます。</p> <p>京都市はちょっと前にスタートカリキュラムを策定したところですし、枚方市さんではスタートカリキュラムのこととか、小中一貫という話は出てきますが、いわゆる保幼小、あるいは進んでいるところは保幼小中というところもありますし、保幼小中高というところもありますし、その辺のところでは保幼少という問題についてはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、ただいまおっしゃっていただきました視点というのは、当然我々の方でも問題意識としては持っているところでございます。今回、こういう形で部門の整理をさせていただく中で、そういったところをどのように記載していくかということも改めて課題であると考えており、これから実施しようとしている取り組みなどをどのような形でこの中に反映していくのか。また、お時間をいただきまして、整理をさせていただきたいと思ひます。</p>
新川会長	<p>市では、高校のことまではなかなか難しいところがあるかもしれませんが、保幼小中は、むしろ、これからの大きな流れとして、学校部門に入れるか、児童福祉のところに入れるか議論があるところかもしれませんが、事務局の方でも少しご検討いただきたい。</p>
角野委員	<p>その件について、全く同感なんですけれども、保育所の保育指針と幼稚園の教育要領が小中学校の学習指導要領に位置するものですが、これが基本的にはほぼ同様の内容に今はオーバーラップさせているんですよ。それで、厚労省と文科省で違いはあるけれども、基本的に認定こども園という方向に今流れているので、学校教育のところではどこまで書けるかは別として、恐らく、教育委員会の方はものすごく認識はしていると思ひます。</p>
新川会長	<p>そのあたりを踏まえて、少し事務局の方でご担当と調整していただいて、打ち出し方の問題もありますので、枚方市が率先して保幼小中ができれば、高大まで含めるということになると新鮮な感じがするかと思ひますが、ちょっとご検討をいただくということをお願いいたします。</p>
角野委員	<p>一生懸命探したのですが、私が見落としているかもしれないですけど、食中毒の防止とか、あるいは食育という言葉は入っているんですけど、アレルギーという言葉が見当たらず、僕らもそうですけど、学校教育も含めてアレルギーでの死亡者って結構多く、問題になっていて、遠足に行くときには、エピペンというアナフィラキシーショックの対応の注射器を持って行くということもありますので、どこかで入れられるのであれば、文言としてはあった方がいいと思ひます。</p>

事務局	<p>ただいまおっしゃっていただきました点につきましては、先ほどの内容とも関係しますが、就学前児童のところであるとか、就学後の小学校に入ってからのことであるとか、そういったところであわせて検討させていただきたいと思います。</p>
新川会長	<p>食育とあわせて、アレルギー対策などについては、学校教育、あるいは児童福祉の面でもかなり神経を使っておられるところもあると思います。どんなレベルで入れるのが一番いいのか、ちょっとご検討いただいて改めて整理いただければと思います。</p>
伊東委員	<p>市民団体の取り組みの記載が薄いというか、市民もしくは事業者の内容になっているように感じられるので、その辺、行政としたら、どうしていきたいのかなと。</p>
事務局	<p>ただいまおっしゃっていただきました点というのは、非常に重要な点だと思っております。もともと、この枚方市の総合計画の考え方につきましても、市民、市民団体、事業者、すべての人たちが協力し、連携して計画を実施していこうというところが出発点になっておりますので、すべてのところ、例えば、基本構想の実現主体の考え方であるとか、後ほどご議論いただきますけれども基本計画の重点のところであるとか、そういったところで、「連携をしながら」という表現をさせていただいております。</p> <p>また、基本計画の中で、例えば地域の団体であるとか、NPO であるとか、そういったところを育てていくというところ、あとは、部門など様々な取り組みの中で、連携という形はとらしていただいているのですが、そういったところについて、先ほどいただいたご意見も含めて、もう一度見直しの方をにかけていきたいと思っております。</p>
新川会長	<p>事務局で、市民の取り組み、市民団体の取り組み、事業者の取り組みというのを全部洗い出すということはなかなか大変だと思いますけれども、やはり、この計画の推進にあたって、この3つの担い手にはとても大きな役割を期待しようとしているわけですので、それぞれ、基本計画の各項目に対応する、まあ言ってみれば取り組み方向に対応するような、それぞれ市民への期待や市民団体への期待、そして事業者への期待というようなものを全体にバランス良く書き込めるといいなと思います。そのあたり、少し工夫をしていただけると良いと思います。</p>
三輪信哉委員	<p>新川会長がおっしゃいましたけれども、市民、市民団体というところ、少し重複しますけれども、言葉使いがいろいろ表れているんだなという感じがしまして。例えば、21ページ、地域や市民団体という表現、それから市民団体という単独の表現とか、それから校区コミュニティとか、コミュニティとかいろいろ言葉が出てくるところで少し違うんです。一度、ちょっと整理をしてもいいのかなと思っております。</p> <p>特に、どのページを見ても足りないなと思うのは、やっぱり地域のコミュニティで、例えば、防災にしても非常に大きな役割を担っていく、通常のNPOさんも頑張ってくださいけれども、そうした地域というのは非常に重要だと思いますが、その辺がちょっと薄いのかなと感じました。</p>
新川会長	<p>実際、もうすでに校区コミュニティ協議会だとか、地域活動を積極的にやっておられるところもあって、そういうところに活躍していただきたいし、防災面などそういった期待もごございます。そして、またもう一方では、今後、地域の地縁の団体、あるいはNPOの活躍に期待したいというようなところもあろうかと思っております。このあたり、これまでの延長で具体的に書けそうなところ、それから、少し一般的に市民団体、地域団体をどう使い分けされるかも含めて事務局の方で整理をして、再検討いただければ改善すると思います。よろしく願いいたします。</p>
加藤委員	<p>確認ですが、今のところで、後ほどの重点施策の議論になると思うのですが、この中に、例えば今のような市民であるとかNPO であるとか、その力を活用する、あるいは育成していくということがありなのかどうか。前に事務局にちょっとお伺いしたときは、</p>

	<p>それはあくまでも手段なので、ある意味であらゆる取り組みの前提とした上で施策に重点をという言い方をされたと思うのです。何かずっとお話を伺っていると、まさにそこを重点施策の一つとして入れていくということも、よりわかりやすい形かなと。個々に入れていくと個々を見ないとなかなかわからないので、その辺、後ほどでいいですからご検討いただければと。</p>
新川会長	<p>そこは、ぜひ重点化のところ、皆様方からご意見をいただいて、部門別と重点との関わり方、横串の指し方というところも、少しご議論いただければと思います。</p> <p>もちろん、議論として行ったり来たりしてもかまいませんので、あまり、ここだけ議論しなくちゃいけないということではございません。いろいろ突いていただければと思います。よろしくお願いします。</p>
後閑委員	<p>これからの10年、20年ということを考えていったときに、様々な国の人たちが来て、一緒に住んでいくという社会、地域になっていくんじゃないかなと思いますので、そこら辺で、多文化共生社会に対応するような内容がどこかに入っているといいかなと思ったのです。じゃあ、具体的にどこへ入れるのかと言われても、なんとなくわからないのですが、もちろん学校教育も健康づくりのところについても、医療についてもすべてに共通することなので、どのようにこれを詰めていったらいいかなと思いました。そういった言葉が入っていなかったものですから、どこかに入っていればいいなと思うんです。特に、災害等についても重要なことになってくると思います。</p>
新川会長	<p>多文化共生も大きな流れであろうかと思いますが、これについて、どういうところで扱うのが一番いいのか、なかなか難しいところがありますが、伝統的には人権のところ、教育の側面もありませんし、近年では、福祉とか、就労のところでも扱っていることもあります。</p> <p>ここは、事務局の方で何か検討してきた経緯などはありますか。</p>
事務局	<p>はい。多文化共生の取り組みとしましては、現在の枚方市では、社会教育の一環でそういった取り組みをさせていただいているのですが、おっしゃっていただきました部分でいきましたら、どのように部門の中に落とすことができるのかということをもた改めて検討させていただきたいと思います。</p>
新川会長	<p>今のところ、少し抜けているところでしたので、全体バランスも含めて適切な位置付けができるのか、事務局の方でもご検討いただければと思います。</p>
事務局	<p>補足ですけれども、会長がおっしゃっていただいた11ページのところに人権の部門がありまして、その一番上の課題のところ、「性別や国籍の違いを越え」と課題認識としてはございますので、このあたりで少し入れるような形で考えさせていただければと思います。</p>
新川会長	<p>問題自体は裾野の広い論点ですので、扱い方は少し考えていただければと思います。よろしくお願いします。枚方には関西外国語大学もありますね。</p>
新川会長	<p>それでは、またお気づきになられた点があればいつでも申し付けていただくということで、先ほど加藤委員からもありましたけれども、全体に関わる重点化すべき施策、あるいは横串を指すという点、そういうところの議論をしていただきながら、また改めて、部門別の中身についてもふれていただく、そんな進め方で、次の案件に進みながら全体を見直すということで進めたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>それでは、一旦、部門別のところはここまでさせていただきま。また後でいろいろ意見をいただければと思いますが、ここまでで出た意見は、保幼小中高、こういった一貫教育、あるいは子どもたちの育み、育ちということをどう考えていくか、食べる物、特にアレルギー問題への対処、そして、市民団体の位置付けへの役割、その整理、それ</p>

から4点目に多文化共生についてどう位置付けるかという論点につきまして、これは、また次回に向けて事務局の方で整理をしていただければと思います。

それでは、引き続きまして、案件の2番目「重点化する取り組みについて」、ご意見をいただけてまいりたいと思います。

これにつきましては、先月各委員からいろんなご意見をいただきました。部会でもご意見をいただきましたし、その他にも個別にお話があったかと思っております。それにつきまして、事務局で整理をしていただきました。整理にあたっては、すでに市民のまちづくりワークショップでいろいろ出されたご意見等も参考にし、それを踏まえつつ、取りまとめたいただくと聞いております。そこで、事務局で一旦整理をしていただいたものをお手元の資料の形で出していただいておりますが、ご説明を聞いて、改めて私どもで議論して意見を出し合っていたらというふうな進め方にしたいと思っておりますが、よろしゅうございますか。

それぞれで提案するのはなかなか難しいと思っておりますので、恐縮ですが、事務局の方から「重点化する取り組みについて」の資料のご説明をお願いしたいと思います。

事務局

(資料2「重点化する取り組み(案)」の説明)

(参考資料3「重点化する取り組み」に係る委員意見一覧)の説明)

新川会長

どうもありがとうございました。ただいまご説明いただきましたように、これまで各委員からいただきましたご意見をベースにして、また、まちづくりワークショップの報告、ここでのご議論なども踏まえまして、3つの大きな重点化項目、「安心して子どもを産み育て、子どもが健やかに成長できるまち」、2つ目が「誰もがいつまでも健康に暮らせるまち」、3つ目が「人々が交流し、賑わいのあるまち」、こういう3つの重点化して取り組む項目、そして、その中で具体的にどういう横串を指していくのかということについて、それぞれ2つないし3つの考え方を出していただいております。

重点化する取り組みの案を取りまとめていただいておりますけれども、これにつきまして、各委員からご意見をいただきたいと思います。何となく、部門別の計画の一部を取り出したようなイメージもあるかもしれません。これをどういうふうに横串にしていくかといったようなことも必要かもしれないと思っておりますので、そのあたりも含めてご意見をいただければと思います。

事務局

先ほど、加藤委員からおっしゃっていただいたこともあわせて補足の説明をさせていただきます。

先ほど、加藤委員の方から、手段として、地域であるとか、NPOなどの育成の方との関わりの部分と、重点の関係のご質問がございました。

一つ、先ほどの部門別との振り返りになってしまいますが、資料1の23ページのところに、「市民によるまちづくり活動を支援します」という部門の中で、主体となるそういった団体への支援をまとめさせていただいております。重点のところに戻っていただきますと、1ページのところで、重点に関する取り組みの考え方という形で、どういう考え方でもって重点の取り組みを進めていけばいいのかという総論部分と、2ページの個別の考え方に沿った内容について、大きく3つの項目についてまとめさせていただきます。

この3つの項目につきましては、総合計画が最上位の計画になってまいりますので、各部門の中で、どの取り組みを重点的に取り組んでいけばいいのか、そういったものができるだけ横断するような形でというふうに考えて作成させていただいております。その中で、担い手の部分については、最初の総論のところ、それを実行していく部分について、連携を図るとか、事業者、市民団体など様々な担い手と一緒にまちづくりを進めていかないといけないということを付け加えていただいております。

総論のところ、そういった考え方を補わしていただくところを、まずは考えていきたいと思っております。

三輪信哉委員	<p>今のご意見を聞きながら思ったのですが、2ページの3番目に、「人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる」という中で、1番目は文化芸術で、2番目は商店街の活性化、3番目は市内産業の活性化と、経済的な面を活性化するためにテコ入れしていきましようというふうに僕には読めてしまう。先ほど角野委員がおっしゃったような、市民活動を活発にしていくというところがこの中には入っていないと私には読めるんですね。</p> <p>確かに1ページのところで、その考え方がすべてに関わるということで入れることは可能なんですけど、選択と集中という言葉を使っておられますが、行政サービスがこれからどんどん縮んでいくときに、行政サービスに置き換わる市民の力、あるいは市民が自分たちで互いにサービスしあうような、自助、共助という言葉がありますけど、その辺のところを今から意図的にどんどん力強くしていかないと。</p> <p>結局、例で言いますと防災なんかでは、どの震災でもそうでしたけど、行政が機能しなくなったら、結局「住民でしょ」みたいに投げ出されてしまった経験が何度もあるわけですよ。そうしたときに、行政が手を伸べてくるまでにえらい時間がかかるため、結局、地域の住民の人たちの活発なつながりが補っていたということで、要は行政サービスを共助のサービスが十分に補っているわけですね。そういう力を市民の方々が持っているということがすごく大事なことで、それを意図的に今から行政が作っていかれることこそ重点化の一つではないかと強く思います。もし、その考えを1ページにお書きになりましたら、何かぼやけてしまって消えてしまうのかなという感じがして、私はちょっと危惧しております。例えば、2ページの3の4つ目の白丸「○」くらいでも結構ですけど、明確に、市民が関わっているものへの支援を行うというようなことが入るべきかなと思っています。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。今おっしゃっていただきました自助、共助、特にこれから大事になってくる共助の部分につきましては、そういった活動を見えるような形で支援していかないといけないという中で、この中で掲げさせていただいている1番の子育てに関する部分であるとか、2番目の高齢者の健康であるとか、3番目の賑わい、交流そういったところのすべてに関わってくる部分かと思っております。</p> <p>ですので、それが、行政の方でしっかりと12年間で実行していく、そういったことが一番大事ではないかと思っておりますので、いただいたご意見を踏まえて、資料がぼやけないよう、よりわかりやすくなるよう、改めて検討させていただきたいと思っています。</p>
徳久委員	<p>実は、先日も同じことを指摘したんですけれども、私は前回、体調不良でお休みさせていただいたんですが、ちょっと、加藤委員や三輪信哉委員がおっしゃっていることと事務局側の理解にずれがあると感じています。</p> <p>一体、それはどういうことなのかということですが、おそらく連携して社会をつくっていく場合に、参考資料1の2ページ目のところの絵の中で言うと、「みんながつながり、支えあうまち」をつくるくらいの課題が重点政策の縦の糸になってもいいと思うのです。</p> <p>それはなぜかというところ、結局のところ、横串の議論、先ほど会長のご指摘にも出てきましたが、各種団体に頑張ってもらおうというのは、縦割り路線の中で全部やっていて、地域福祉のための体制をつくりなさいと厚労省から降ってくるし、学校教育では文科省から降ってくるし、似たような組織をいっぱい立てていて、もう地域が疲弊してきていることがどこでもあるんです。逆に言えば、自治体の側は、地域の受け皿を一本化してあげないと体力が持たないという問題があると思うのですが、結局それが、横串の課題として本来出てくるんです。しかし、そういう再編のことが、この議論の中では明確に課題として意識されていないんです。そこは、12年の期間でも比較的短いんじゃないかというくらい時間のかかる課題ですので、その地域社会をつくっていくという点では、重点施策の一つに挙げていいと思います。</p> <p>それと、個別具体的に言うと、やはり、中間支援の概念が非常に弱いという気がするんです。恐らく、NPOが参入しにくい理由というのも、中間支援の弱さがあるって、補助金の期間が非常に限られていて活動が打ち切られてしまうなど、もう10年以上同じ課題が言われ続けていても、今もなお解決できてないということがあります。</p>

<p>新川会長</p>	<p>これは私が勝手に思い込んでいるだけですが、恐らく、枚方市の中では、地縁団体とNPOの連携もまだまだ弱い。そこをどうしていくのかといった場合に、やはり中間支援的な部分がどうしても必要になってきますので、そこは、結局行政のお仕事でもあると思うんですね。</p> <p>そういったところが体制づくりとしてうまくいった場合に、この3つの課題というの、たぶんうまく機能すると思うので、やはり、その根幹にあるような、みんなでまちをつくるという体制づくりを、基本計画で設定している最初の12年間でしっかりとやりますということ掲げた方がうまく機能するという気がします。以上です。</p> <p>ありがとうございました。お三方に共通して、重点化の項目1、2、3について、最初に、市民協働の担い手づくり、体制づくりとして、それを主として積極的に育んでいくことをきちんと入れていくべきではないか。それが、部門ごとの市民、あるいは市民団体の活躍を中間支援する、そういうイメージの方がいいのではないかというご意見をいただいたかと思います。</p> <p>どうぞ、各委員からもいろいろなお考えがおりかと思っております。</p>
<p>角野委員</p>	<p>例えば、1つ目が0歳～15歳というような感じがあるんですね。2つ目がシニア世代。それで3つ目が働き盛りの人みたいなね。</p> <p>例えば、1番でいうと、生涯学習の中に学校教育があるというのが今の流れですので、それでいうと、まさにすべての市民が1番にも2番にも3番にも関わるのでしょうね。さっきの話と一緒に、じゃあ、その担い手が誰で、エンジンはどこにあるのかなということを書きこいておかないと見えないと思いました。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>確認ですが、3番目の「人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる」のところ、具体的に、例えば、産業育成や雇用創出につながるという視点が一つありますよね。これは、人口減少社会の中で人口が減ってきていて、これを食い止めてさらに増やそうと思ったら雇用の場が必要で、そういうことで産業振興を書かれているのか。</p> <p>「人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる」といったときに、全体の中からいうと、めざすまちの姿で「一人ひとりが輝くまち」ということがあって、言ってみたら、枚方には市民の今までの歴史もあれば、いろんなまちづくりの取り組みもあって、極めて成熟されたまちの中で都市型の生活がある。都市型でありながら、例えば自然もあって、あるいは文化活動もたくさんあるということが享受できるまちってすごくて、そこを書いているんじゃないかと。もちろん、近くにそれなりの商店街とか商業施設もあって、非常に便利な生活も送れる。だから、力点はどこにあるかという、ありきたりな言い方で言うと、市民が利便性の高い生活を送って、例えば、いろんな文化的なプラスアルファの活動も自ら行い、あるいはそういう他の人がやってくれることを享受できる、だから、市民の活動としては素晴らしいという視点で書いているんじゃないかなと僕は思ったんですよ。それが単に雇用の創出であるというのとはちょっと違う位置付けなのに、いろんなものがこの中に入っている、逆にこれは何なのかという質問があったんじゃないかと思ったんです。それはどうですかね。</p>
<p>事務局</p>	<p>今おっしゃっていただきました、3番目の最後の白丸「○」の部分ですけれども、加藤委員がおっしゃっていただいているように、枚方市内には複数の企業団地もあって、当然その中で企業活動されている。さらに、今後そういった部分を活性化させる。そのための一つの手段として、移動手段、公共インフラであるとか、いろんな方法があるとは思いますが、そういった部分をここは一つの例示として書かせていただいている、そういうこともしっかりとさせてもらって人々の交流につなげる。今、雇用を促進すれば、当然、その人が地域内外からやってくる、ですので、そういう形で外から来られる人とも少なくとも交流が生じてくる。そういった方が増えれば増えるほど、そういった方を逆に市の中に取り込んで永住していただくということにもつながっていきます。</p> <p>そうしたことから、人々の交流であるとか、産業を活性化していくことで定住につなげる。現在、枚方市につきましても人口が減少している中で、そういったものを考えて</p>

	<p>いく。空洞化まではなかなか難しいですが、それをいかに抑制していくのか、その一つのツールとして、産業の活性化だけではありませんけれども、交流の部分などを重点的に捉えることで、人口減少を抑制していくことができる。そういったことに重点的に取り組んでいきたいという考え方で記載させていただいております。</p>
加藤委員	<p>人口減少社会において、いかに人口減少を食い止めて、願わくは公共サービスを持続できるくらいの財源を確保する。その目的を立てて実行するために、重点的な施策を展開していくということが一つの考え方ではあると思うのです。それで、全体の流れからすると、枚方の魅力アップということが前面に出ていますよね。今までの住宅都市ということ前提にすると、住宅都市としてずっと住み続ける、それから、比較的若い人たちにも入ってきてほしい。雇用がちょっとあるのかもしれないけど、それは枚方が生活する場所として魅力的だと。さらにそれを磨いていきましょうということを、目的というか、重点的な施策として立てるかによって、当然手段は変わってきますよね。その議論なのかなと。</p>
新川会長	<p>最終的にどういう姿にしていくのか。決して産業都市を目指してできるわけではないので、そこは少し考えなくちゃいけないんですが、しかし、そういう要素もこれから一定程度は考えないといけないのはそのとおриだと思います。重点的な取り組みとして、本当に産業部門を取り上げることがいいのか、それともむしろ、交流や賑わいやそれを魅力に感じてもらえるようなまちがあって、そこにたくさんの人が魅力を感じて集まってくるというイメージの方がいいのか。そこは少し、目標も方法もだいぶ変わってきますし、関連する文言もずいぶん違ってきますので、整理が必要かもしれないですね。</p>
谷本委員	<p>今、私もちょっと違う視点でこの部分に少し引っかかっています。「市内の移動をスムーズにするなど、人々の交流促進や市内産業の活性化を図る」と書いていますが、今の議論もそうですし、交通政策の充実は非常に大切だし、産業育成や雇用創出につながることはわかりますが、それを重点の例示として挙げられると、それが中心なのかというところとはちょっと違うというような気がしています。どちらかというところ、一つ上の枚方市駅周辺の再整備のハード、ソフトを含めたまちの整備の中に、交通政策なども例示として一つ加えて、人々の交流、まちの賑わい創出を図るというふうに合わせて方が、何となく違和感がないのかなと。</p> <p>それで、交流促進や市内産業の活性化というところ、部門の中にも書いていましたが、地域の今ある産業を活用したり、地域資源を生かしたりとか、今後、地域に根付いていくというイメージの言葉を加えて、そこの中で、観光資源も含めて、人々の交流促進や、商業、工業を含めて市内産業の活性化につなげていく。特に商業もそうですし、枚方市には7つの企業団地があって、そういう特性を今後もずっと守っていくことが市内の発展にはつながると思いますので、そういう面も含めての書きぶりの方がどちらかというところ違和感がないと思います。</p>
事務局	<p>ただいま、おっしゃっていただきましたように、先ほどの議論とも重複しますが、枚方市の特性としましては、大阪、京都の中間ということを生かしたベッドタウンという特性があります。子育て世代も大切にしていけないといけませんし、さらに、今、谷本委員がおっしゃっていただきましたように、今後も引き続き、市内の産業を活性化することによって、交流促進や定住促進を図っていききたい。そういった中で、3番目のところについては、いただいた意見を踏まえて、再度検討していきたいと思っております。</p>
徳久委員	<p>やはり、それぞれの委員の方がおっしゃったように、どうしても、この3つの重点化が縦割りにくいところでは拭えないのです。その上のところですが、3番目の「人々が交流し」というところが、本来的にはワークショップからも出てきているような世代間交流だったり、先ほどちょっと話題に出ました多文化主義的な問題であったり、これ</p>

	<p>がここに入ってくるのだと思います。そういったキーワードをここに入れた方が、例えば、世代間交流や多文化交流を積極的に図るまちにするというところを入れていくと、もう少し、文化都市であり、生活都市であるという枚方の魅力発信につながっていくような気がします。</p>
新川会長	<p>ぜひ、そうしましょう。今のご意見を踏まえると、3番目のところは、交流や賑わいというところを重点化して考えていかないといけない。そのために地域のいろいろな資源やあるいは外からの様々な資源について、市民の協力をいただきながら活発な活動ができるまちにしていく。そういうイメージの方がいいかもしれませんね。ここは、ちゃんと産業が根付かないといけないという議論があるかもしれませんので、それぞれのご意見をいただければと思います。</p>
角野委員	<p>最初に意見した理由は、これを見たら成熟社会を狙っているということをもものすごく感じた。私も企業団地があるのは知っているので、成熟社会の中における産業育成というのは、すでにあるものから付加価値を生み出すような企業育成だと思っていて、こういう成熟社会を表に出すということを少し感じたので、年齢では縦割りですけど、年齢で分けているような雰囲気はどうしても気になって。特に、2番目なんて言い訳っぽく「世代に関わらず」って入っている。でも、これはシニアのことでしょう。「人々が交流し」で私のイメージに浮かぶのは、小さい子どもから大人、シニアまで一緒に集まっている成熟社会を求めているというふうに感じたものですから、冒頭で申し上げました。</p>
三輪信哉委員	<p>きつと的外れだろうと思いがちちょっと言わせていただきますと、1番目の「安心して子どもを産み育て」というところでは、私は枚方市に住んでいないのでイメージができないのですが、1歳から3歳、あるいは6歳、7歳くらいの子が、まちの中の路地でドッジボールをしてとか、鬼ごっこをしてとか、そういうことが見られる社会をイメージしているのでしょうか。</p> <p>なぜ僕がこういうことを言うかという、この書き方から見ますと、例えば、この部門別の課題と対応一覧について、最初にご説明いただきました中で、13ページのところの行政の主な取り組みの中で、「子どもが安全に過ごせる居場所づくりの推進」という一項目だけ入っているんですね。あとは、何か大変なお母さんをどう支援するかとか、あるいは病気の子もたちをどう支援するかとか、そういうことがうたわれていて、子どもたちが走り回っているようなイメージがなく、また、そういうまちをつくっていかうということも意図されていないような感じがとてもしました。三つ子の魂百までと言いますが、最初から、この書き方を僕なりに絵を描くと、友達の夫婦が子どもを育てはじめて、すつとどこかへ預けて、そこである種の囲われた集団の中で育てていって、ある程度育ったら、すぐに塾に行って英語教育されてというイメージがすごく強い。それで、学校教育の部門のところで「人間性が豊かになる」と書いてあるんですけど、果たして、それが人間性の豊かさに関係しているのかなとちょっと思っています。</p> <p>すみません、きつと的外れだと思いますが、そういうイメージが浮かんで来て、賑わいといったときに、東京のように幼稚園、保育園は迷惑施設だから造るなということに近くなると怖いなど。もっと子どもたちが自由に走り回っているようなイメージができれば。例えば、イギリスでは、路地をはがして芝生を植えるという事例があって、駐車場をもとの木立に戻すとか、そういう空間整備や、あるいは本当に何をやってもいいような児童公園がたくさんあるとか、そういうことがどこにも書かれていない。だから、子どもはどういう世の中で育つのだろうと思います。バギーで連れられて保育所に入って、それでまた送り迎えされるというような囲われた中で子どもは育つのかなと。それが、果たして子どもの伸びやかな人間性を育めるのかなと。僕は、児童教育はまったくのど素人ですから何も言う権利はないんですけど、そんなイメージを持ってしまいました。</p>
新川会長	<p>恐らく、そういう感覚、印象は多くの方がお持ちかもしれませんね。 もう一方では、実際に子育ての現場では様々な困りごとがあって、それをどう解決し</p>

<p>橋本委員</p>	<p>ていくのかということで基本計画が作られているということもあります。両方いるんですけど、さて、私たちはどう重点を置いたらいいのかということは少しご議論いただければと思います。本当に子どもたちが自分たち自身で育っていくという環境をつくれる重点化の項目になっているか。</p> <p>参考資料1の2ページになりますが、以前から重点に関する取り組みという言葉聞いてなかなか理解しづらいことがあったのですが、こちらの2ページの基本計画の12年間の図を見ていますと、どちらかというと、本来、部門別の取り組みの中から重点化する取り組みがあったらいいのかなとちょっと思ったのが一つ。それから、重点化する取り組みの3つの項目を見ていますと、基本構想の5つの基本目標の中の3つの部分に集中しているという感じがありましたので、本来は3つの重点化施策に関しては、5つの基本目標をもっとバランス良く配分したような内容にしないといけないのではないかなど。実行計画を作成する上においては、基本計画に掲げる重点化施策等を踏まえてと書かれていますので、この重点化施策は非常に重要だろうなということも伺い知ることができます。</p> <p>ちょっと理解しづらかったのも、本来なら部門別の取り組みがあって、選択と集中ということで、その中から特にこのあたりを重点化していきたいということがあって、それをもとに実行計画を作っていくという方が個人的には理解しやすかったので、ちょっとこの辺りの図を、部門別の取り組みから重点化、その重点化が5つの基本目標をバランスよく配分するような形にしないと、基本目標の中でも上位と下位が生まれるのかなというような気がしたので、その辺りについては少し気になるのかなと思うところがあります。</p>
<p>富岡委員</p>	<p>先ほどの三輪信哉委員のお話で、まさに僕も同感のところがあって、子どもの遊び環境ということに関しては、その質が低下してきているということで、ずいぶん前から危機的な状況であると言われてきています。保育の現場のところで言えば、現場の先生は、実は、それをいかにして豊かなものにしていこうかと十分考えておられるところだと思うんですね。三輪信哉委員が言われたような、子どもたちが連れて来られてという状況もあるかと思うんですが、そういう中で、保育の現場では出来るだけ努力をしようというところはあると思います。</p> <p>それと同時に、都市環境、いわゆる都市のデザインとして子どもの遊び場をいかに有効に配置し、それをネットワークしていくんだというのは、やっぱり、住んでいく都市の環境としては非常に魅力的なのかなとも思います。そういうまちづくりをしているところはなかなかないですが、もしそれができるのであればとても魅力的だと思います。</p> <p>例えば、新しい大規模な住宅開発なんかの場合には、いわゆる、そのネットワーク路地みみたいなものを造っている例もあると思いますし、そういうものがまちの中でネットワークし、あるいは、ある部分がつながっていくとか、そのようなことはとても魅力的だとは思っています。</p>
<p>新川会長</p>	<p>インフラもソフトも含めて、子どもたちが遊べるまちをつくっていくということが重点化できるとおもしろいですね。これは他にはない、魅力的な枚方につながるとは思います。そこまで踏み込めるかどうかはわかりませんね。</p>
<p>吉川委員</p>	<p>これは、子どもたちだけではないと思うんですよね。大人であっても、老人であっても使い勝手の良いまちというのはあるわけですから。そこは、何かうまく書き方を考えて。我々委員の中でもみんな世代が違いますから、それぞれの子ども時代のイメージがあって、三輪先生は三輪先生の育ったイメージだと思いますが、最近、うちの学生の話聞いてみると、我々はアスファルトキッズだと言っていますよ。</p>
<p>谷本委員</p>	<p>先ほど、橋本委員さんがおっしゃられた内容、基本構想の5つの基本目標から基本計画の重点化する取り組みということは私もまったく同感という印象を受けました。重点化する取り組みの3つが、この5つの基本目標を網羅できていないと思ったことと、</p>

あとは同じことなので重複する部分は割愛させていただきますが、「めざすまちの姿」のところまで遡って、ちょっと思った印象が、この「めざすまちの姿」に沿って考えたときに、「住み続けるんやったら」という問いかけの最初の言葉、副題の方ですが、今さらながらそこになんとか違和感を持ってしまいまして、先ほど角野委員が年齢層を考えてしまうとおっしゃられたんですけど、世代を超えてみんなに優しいまち方っていう部分は何となくあっていると思うんです。

だから、「住み続けるんやったら」という問いかけよりは、「住み続けましょう」というような言葉遣いの方がなんとなくしっくりくるんじゃないかと、今さらながらに印象を受けました。もし、まだ、そこに余地があれば直せないかな。

新川会長

基本構想は、基本計画のところの議論を踏まえて、もう一度最終的に確定しましょうということで議論をしてきましたので、そこは今日でもご意見をいただいて、最終的に固められればと思っておりますから、どんどん言っていただければ。

計画の中身が固まってくれば、また基本構想のコンセプトも校正、微修正をせざるを得ないことがあろうかと思っておりますので、そこはご意見いただければと思います。

事務局

参考資料1の2ページのところで、重点の考え方のところでいくつかご意見をいただいておりますが、我々としては、この間のご意見を踏まえまして、まず、総合計画の部門別のところでは、どうしても総花的な形で対応せざるを得ない性格を持っていると考えています。枚方市の上位計画になりますが、それぞれの部門の中には強弱があって、その強弱をどのようにつけていくのか。重点化の取り組みの中でその考え方を出すことによって、それぞれの部門の中で強弱が出たり、その下の具体的な取り組みの中でも強弱が出てきたりする。そういう最初の取っ掛かりの考え方としてまず整理をしていくということが、これから選択と集中といったときに大事になってくる。重点の捕らえ方としまして、行政運営に求められている中においてそれを一番先に持ってきてまいしょうという考え方で、今回整理させていただき、お示しさせていただいているとご理解いただきたいと思っております。

そのため、今回、その中で初めて、基本計画について、これまでご議論いただいたものを踏まえ、このような形で整理をさせていただきました。本来であれば、基本構想のところから今回の基本計画のところまで、冊子にしてまとめたものになれば、よりわかりやすくなっているのかなと思っておりますけれども、そこについては、まだまだ、ご議論していただいたものを踏まえて整理をかけさせていただこうという中で、どうしても資料の出し方が断片的になっていますが、計画自体の考え方はそのような形で作り込みをしていきたいと考えているところでございます。

加藤委員

すみません。その重点化する施策の考え方ですが、例えば、5つの部門があって、その中で3つは集中的にやりましようというのが、まさに選択と集中ということだと思うんですね。先ほどからの議論からすると、12年というのは、ちょっと長すぎると思うんですが、これからこのまちを変えていくというプロセスに着目していく場合に、どこに力を入れて、動かしていったら、例えば、5年後にはこの姿になる、そのための重点施策というふうに考えているんですね。

今ある中のどこに重点を置くかではなくて、5年先のあるべき姿を見据えたときに、最初に何をしないといけないのか。先ほど議論がありましたが、そのための第1ステップというのは、たぶん協働の仕組みをつくること。

今、いろいろ意見が出ているけど、例えば、受け皿になるような地域コミュニティの中でちゃんと連携ができていますか、できていないじゃないですか。あるいは行政側で対応すべき窓口がどうなっていますか、ひょっとしたらまだ縦割りで対応しているだけで、そこに窓口になるような組織をつくっていないじゃないですかということになったら、まず、そこからやりましようということで、次のステップとして、何をやったらいいかということも重点施策の一つの考え方だと思うんですね。

だから、どっちを取るかによって、この力点、見方が変わってくるので、まずそこからです。どうも、重点施策って、5つある中のどこに力を入れますかみたいな感じになってしまうのですが、実はそうではなくて、計画の中で、実際にそこへ辿り着くまでに、

新川会長

どのプロセスを踏んで、どこに力を入れていきますかということで、たぶん、その場合には予算というのも当然あって、例えば1.5倍にするのか2倍にするのかとなったときに、どの予算を2倍にするのか。極めて具体的な話の中で出てくる議論じゃないかと思うんですが、ちょっと今の議論は抽象的になりすぎるというイメージです。

ありがとうございました。加藤委員から少し整理をいただきましたが、5つの基本目標を立てましたけれども、もちろん、その中で重点を置くというようなものを選ぶというのがありますが、もう一方では、例えば、基本目標の5つには入りませんが、基本構想を実現するために市民が参画しやすい環境づくりというものが挙がっていて、むしろ重点化するならそうした市民の活動をもっと活発にしていくというところから取り組まないといけないかという話でしたが、これは各委員からもたくさん出てきていました。

言ってみれば、重点化は重点化なんですけど、言わば、基盤づくりの重点化のようなどころもあると思いますし、それから、具体的な成果として、市民の暮らしをこんなふうに変えていきますというような重点化も当然あると思います。

ここは、むしろ、いろんなレベルの重点化があってもいいのかなと個人的には思っていますが、それが逆にこれからの基本計画を実行していく上で、本当にうまく全体の計画とも絡みあって、魅力的な枚方をつくっていく上での、本当の重点になると一番いいかなと考えたりしています。

ただ、今日は予定の時間をそろそろ過ぎようとしておりますので、ここはもう少し議論が必要かなと思います。今日は、この重点化施策のところについては、重点化そのものの考え方をもう一度整理しないといけないということで一つはご意見をいただきました。この点については、私たちがどういう重点化の項目を考えていくのかについて、今日の議論を踏まえて、一度、事務局の方で整理をしていただければと思います。

それから、大きな2つ目としては、重点化の取り組みについて、まずは総論と3つの項目を挙げていただきましたが、全体を通じて入るような、市民の力、あるいはこれからの枚方をつくっていくエンジン、そこをしっかりと書き込んでいくことが重点化ではないかと、そこで行政としてもやるべきこと、あるいは地域としてやるべきことがあるのではないかとのご意見もいただきました。

それから、特に交流、賑わいのところについていえば、むしろ、交流、賑わいをつくっていく、その中で産業の話や雇用の話だとかも付随して出てくる。むしろ、地域が持っている資源を上手に組み合わせながら、魅力をつくっていく。そういう、交流、賑わいの重点の置き方というのが、むしろ、本来の重点の姿ではないのか、そんなご意見もいただいております。

それから、第1番目の文言については、子育ての関係、これについても、むしろ子どもたち、子育ての育てる側の視点というのが、ずいぶん強調されているけれども、育つという視点、そして、それを都市全体で作っていくという視点が欠けているのではないかと、ということで、実はそれが子どもの問題だけではなくて、2番目の高齢の方の問題、あるいは、生産年齢人口で働いておられる方にとっても大事なんじゃないかという議論もいただいております。

こんなあたり、今日すぐに取りまとめるということではありませんが、一度、事務局の方で整理をしていただいて、次回までにもう一度検討させていただいて、各委員にご意見をお伺いする、そんな手順で進めざるを得ないなと思っていますので、恐縮ですが、よろしく願いいたします。

それでは、時間の関係もあって、私の方で勝手にまとめてしまいましたが、各委員から、こういうところもしっかり考えろというようなことがございましたら、ご意見をいただけないか。案が出てきてからまた考えますか。

それでは、大変恐縮ですが、予定の時間が来てしまいましたので、今日のところは宿題がたくさん残ったということで、特に重点化のところはもう一度、きちんとご議論させていただくということにしたいと思います。

部門別の方は、相当事務局の方でご配慮いただいて、整理が足りていたかと思っております。多少、過不足ございまして、そこもご意見をいただいたところもあります。これはある

事務局	<p>程度、整理をしていただければいいのかなと今日のところは思っております。それを踏まえて、次回以降のご審議の準備を事務局の方でしていただければと思っております。それでは、恐縮ですが案件部分については以上にさせていただきます。その他、今後のスケジュールですが、事務局の方からご説明をお願いいたします。</p> <p>(資料3「総合計画策定スケジュール」の説明)</p>
新川会長	<p>どうもありがとうございました。まずは、今日出していただいたご意見を踏まえて、この後、お気付きの点も少しいただきながら、部門別、それから重点化の在り方について整理し、次回の審議会での議論に結び付けていくという作業を事務局とともにもう少し進めていきたいと思っております。</p> <p>今日のご意見を踏まえたものを、次回5月に改めてご審議させていただければと思っております。その上で、次回の審議である程度方向が出れば、それを議会にも報告し、また市民の皆様にもご説明してご意見をいただくような手順、これは次回の進み方次第ということであろうかと思っておりますが、そういう手順に入りたいということを事務局からご説明いただきました。</p> <p>今後の進め方について、当面次回までの進め方はご了解いただけるかと思っておりますが、何かここまでのところで、ご要望、ご意見等ございましたらと思っておりますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>次回、計画の進行管理としまして、このスケジュールにもありますが、計画の進行管理、進捗を測る指標につきましても出していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>
新川会長	<p>そうですね。これは、前々からそういう予定でお話をさせていただいておりました。委員からもご意見がございまして、実際に使える計画にしていくため、進捗管理をしていく際、客観的な指標、目標がないとチェックできないでしょうというようなご意見もいただいております、そこを事務局でも少し工夫をしていただければと思っております。これも合わせて次回ご提示できるということです。</p> <p>それでは、ご意見等いただく日程等も含めまして、事務局の方から何かご連絡事項等ございましたら、よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>本日の資料等につきまして、ご不明な点などがありましたら、恐れ入りますが、来週5月1日の金曜日までに、電話、メールなどで、事務局までご連絡いただければと思っております。</p> <p>また、これまでと同様に、本日の資料につきましては、机の上にそのままにしておいていただければ、委員専用のバインダーに閉じて保管させていただきます。</p> <p>次に、本日の会議録につきましては、事務局で案を作成しましたものを、皆さんにご確認いただきまして、その結果を会長と調整させていただきまして、決定したものをホームページで公表していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>最後になりますが、次回の審議会の日程につきましては、改めて、皆様にお知らせさせていただきますので、よろしくお願いたします。以上でございます。</p>
新川会長	<p>どうも、ありがとうございます。それでは、日程等はまた改めてということでもございましたので、恐らく、5月下旬くらいを目処にということでも調整させていただきますので、よろしくお願いたします。それまでの間に、もう一度、今日のご意見を踏まえて、できるだけ良い案を委員の皆様のところへ送られると思っております。そのためにも、ぜひ、来週の金曜日までのようでしたが、いろいろとご注文、ご意見をお寄せいただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>少し予定の時間を過ぎてしまいましたけれども、大変熱心にご意見いただき本当にありがとうございました。以上をもちまして、第8回総合計画審議会を終了いたします。</p>